

## 29. だいこん

### ・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) Zボルドー	散布	—	—	野菜類(キヤベツを除く)
	ドイツボルドーA	散布	—	—	野菜類
31	スターナ水和剤	散布	収穫14日前まで	5回以内	
M5	ダコニール1000	散布	収穫45日前まで	3回以内	
39	ハチハチ乳剤	散布	収穫30日前まで	1回以内	
M1	ヨネポン水和剤	散布	収穫7日前まで	4回以内	
21	ランマンフロアブル	散布	収穫3日前まで	3回以内	

### ・殺菌剤(参考農薬)

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
NC+M1	ジーフайн水和剤	散布	収穫前日まで	—	野菜類(なすを除く)
M1	(銅水和剤) コサイド3000	散布	—	—	野菜類

### ・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオン乳剤	散布	収穫30日前まで	4回以内	
4	アドマイヤー1粒剤	播溝土壤混和	は種時	1回	
1	カルホス粉剤	土壤表面散布土壤混和処理	は種時	1回	
13	コテツフロアブル	散布	収穫14日前まで	2回以内	
5	スピノエース顆粒水和剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
1	ダイアジノン粒剤3	土壤混和	は種時	1回	
11	トアローフロアブルCT	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	—	野菜類
3	フォース粒剤	播溝土壤混和	は種時	1回	
4	ベストガード水溶剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
3	マブリック水和剤20	散布	収穫14日前まで	2回以内	

### ・殺虫剤(参考農薬)

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
6+15	アファームエクセラ顆粒水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
14	パダンSG水溶剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
UN	プレオフロアブル	散布	収穫14日前まで	2回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 蚕毒・魚毒については、「34. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウィルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防除方法	注意事項
萎 黄 病 (F)	は 種 前	1. 抵抗性品種を採用する。 2. 土壌消毒する。土壌消毒の項を参照し、登録薬剤を用いる。 3. 発病地では連作をしない。	1. 抵抗性品種を用いれば、概ね土壌消毒は必要ない。
白 さ び 病 (F)	生 育 期 間	1. ダコニール 1 0 0 0 の 1,000 倍液、ハチハチ乳剤、ランマンプロアブルの 2,000 倍液のいずれかを散布する。  [参考農薬] 1. ジーファイン水和剤の 1,000 倍液を散布する。	1. ハチハチは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 2. ジーファインは高温下、連続散布で薬害が発生する恐れがある。
軟 腐 病 (B)	生 育 期 間	1. ヨネポン水和剤、乙ボルドー500 倍液、ドイトボルドーA の 500~1,000 倍液、スターナ水和剤 1,000 倍液のいずれかを散布する。  [参考農薬] 1. コサイド 3 0 0 0 の 2,000 倍液を散布する。	1. 早まきしたり、高温・多湿が続くと多発する。
ネグサレ センチュウ	は 種 前	1. 土壌線虫の項を参照する。	
アブラムシ類 ( ウ イ ル ス 媒介)	は 種 時	1. シルバーストライプフィルムをマルチする。 2. アドマイヤー 1粒剤を 10a 当り 6kg 播溝に施用し、土壌混和する。	1. 春は晚まき、秋は早まきで被害が大きい。 2. はくさいのウィルス病が伝染源になることがある。
	生 育 期 間	1. 別表により、いずれかの薬剤を施用する。	
キスジノミ ハムシ	は 種 時	1. フォース粒剤を 10a 当り 4kg 播溝に施用し、土壌混和する。	1. フォースは蚕毒及び魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
コ ナ ガ	生 育 期 間	1. 別表により、いずれかの薬剤を散布する。	
タ ネ バ エ	は 種 時	1. ダイアジノン粒剤 3 を 10a 当り 5~8kg 敷布後、土壌混和する。	
ネキリムシ類 (カブラヤガ)	は 種 時	1. カルホス粉剤を 10a 当り 6kg 土壌表面に散布し、土壌混和処理する。	
カブラハバチ	生 育 期 間	[参考農薬] 1. パダン S G 水溶剤 1,500 倍液、またはプレオフロアブル 1,000 倍液を散布する。	1. パダン、プレオは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。

【別表】 殺虫剤の使用方法及び効果（表中の登録内容は令和7年11月30日現在）

薬剤の系統	I R A C コ ード	薬 剂 名	希釈倍数・施薬量	薬剤の使用と効果							
				ア オ ム シ	コ ナ ガ	ア ブ ラ ム シ 類	カ ブ ラ ハ バ チ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	タ ネ バ エ	ネ キ リ ム シ 類	
有機リン剤	1	カルホス粉剤 ダイアジノン粒剤3	6kg/10a 5~8kg/10a						○ ○*	○*	
合成ピレスロイド剤	3	アディオン乳剤 フォース粒剤 マブリック水和剤20	3,000倍 4kg/10a 4,000倍			○*		○*	○		
ネオニコチノイド剤	4	アドマイヤー1粒剤 ベストガード水溶剤	6kg/10a 1,000倍			○*					
B T剤	11	トアローフロアブルCT	1,000倍	○	○*						
ネライストキシン系	14	パダンSG水溶剤	1,500倍	○	○	○	□ <sup>1)</sup>	○			
その他	5 6+15 13 UN	スピノエース顆粒水和剤 アファームエクセラ顆粒水和剤 コテツプロアブル プレオプロアブル	5,000倍 1,500倍 2,000倍 1,000倍	○ ○ ○ ○	○ □ ○ ○	○*		○			

## 【効果凡例】

○\*: 効果ある（対象害虫に普及済み） ○ : 効果ある（対象害虫に未普及）

□ : 効果ある（参考農薬として掲載） △ : 効果劣る

1) 登録はカブラハバチ類

## 【注】

- 合成ピレスロイド剤は蚕毒及び魚毒に、アファームエクセラ、スピノエース、パダンは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
- 蚕毒・魚毒及び水産動物への影響については「34. 野菜類の総括注意」も参照する。
- コテツは、7葉期以前に散布すると白化を生ずる場合があるので、8葉期以降に散布する。
- 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「IRACコード」を参考にしながら他コードの薬剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。